

表 令和5年8月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第81～88号	4日、7日、11日、14日、 18日、21日、25日、 28日 16時00分	噴火活動が継続。昭和火口の噴火、噴煙、 大きな噴石飛散の状況。南岳山頂火口の 爆発、噴煙、大きな噴石飛散の状況、火映 の状況。 現地調査による火山ガス(二酸化硫黄)放 出量。24日に3300 t/日を観測。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS連続観測では、長期にわたり始良カ ルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな 基線の伸びがみられる。始良カルデラ地 下のマグマ蓄積の状況。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、 降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと) に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第35～42号	4日、7日、11日、14日、 18日、21日、25日、 28日 16時00分	15日の無人航空機による観測では、6月 7日との比較で、古岳火口内で地熱域が 拡大し、噴火活動が活発化しているのを 確認。火口底の南東側に新たな噴気地帯 が形成され、土砂が噴出していた。火口内 で土砂の噴出痕と推定される領域を確 認。古岳付近の浅いところで火山性地震 が多い状態。 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、14日 は400 t/日を観測。以降やや多い。 監視カメラでは新岳で白色の噴煙を観 測。また古岳火口から初めて噴煙を観測。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第53～60号	4日、7日、11日、14日、 18日、21日、25日、 28日 16時00分	火山性地震は、7月下旬以降、概ね少ない 状態で経過。山体の西側での膨張を示す と考えられるわずかな地殻変動が継続。 火山ガス(二酸化硫黄)放出量は3月下旬 以降、以前より多い状態。
霧島山(えびの高原 (硫黄山)周辺)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第12～17号	4日、7日、11日、14日、 21日、28日 16時00分	GNSSの硫黄山近傍の基線で、5月頃から 山体浅部の膨張を示すと考えられるわず かな伸びがみられる。 硫黄山の南側の噴気地帯では活発な噴気 活動が継続。西側500m付近では、弱い噴 気を観測。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第32～35号	7日、14日、21日、28日 16時00分	噴煙、火映、火山性地震、地殻変動等の火 山活動の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第62～65号	7日、14日、21日、28日 16時00分	噴火活動が継続。大きな噴石飛散はなし。 集落での降灰の状況。爆発の発生はなし。 火山性地震、微動の発生状況。GNSSでは、 島の西側深部におけるマグマの蓄積量の 増加を示す変動は認められない。
焼岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1～10号	19～28日 16時00分	16日から19日にかけて山頂付近を震源 とする火山性地震が、日回数10回程度に 増加。GNSS連続観測では山頂付近で緩や かな膨張を示すと考えられる変化が継 続。中長期的に火山活動が高まってきて いる可能性がある。
霧島山 (新燃岳)	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第7～8号	29日 18時32分 30日 11時00分	29日17～19時頃、新燃岳の西側約2km のやや深いところで地震が一時的に増 加。霧島市横川町で最大震度1を観測。新 燃岳火口直下の火山性地震は少ない状態 で経過。地殻変動及び新燃岳西側斜面割 れ目付近の噴気に特段の変化はない。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 浅間山、霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島におい
ては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表してい
る。